



「明日も生きていられる」 生活の安心は、まず食事から。

羽金和彦さん（宇都宮市保健所・所長）にインタビューしました！

●文・宮坂真耶（編集担当）



フードバンク(FB)のケース検討会議にご参加いただいている、宇都宮市保健所所長の羽金和彦さんにお話を伺った。宇都宮市保健所では「健康増進」「生活衛生」「保健予防」の観点から、地域住民や事業所等へ様々な取り組みをしている。

■健康の格差。 原因は「困窮」と「孤独・孤立」

平均寿命の伸びとともに、疾病全体に占める生活習慣病の割合が増加し、死因の約6割に達している。地域や社会経済状況の違いによる健康状態の差を「健康格差」という。格差が生まれる原因を羽金さんは「困窮」と「孤独・孤立」にあるという。



フードバンクで
幸福と、できれば
健康も届けて
ほしいですね



羽金和彦さん
(宇都宮市保健所・所長)

健康のためには食事・運動・休息が必要だ。しかし、困窮状態にあるとそれらが十分に得られない。「精神的にも悪影響となり、心身ともに健康から遠のいてしまいます」と羽金さん。

また、「孤独・孤立」の原因のひとつに社会連帯の変容があげられる。「かつては家族や地域から、ある意味しぼりつけられるつながりがあったのが、現代は個人の自由の幅が増えました。その裏返しとして、孤独を感じたり孤立状態に陥る人が増えました。」人を頼り、頼られることのハードルが上がったのかもしれない。

■フードバンクは、生活の安全を守るセーフティネット

「健康はまず食事から。フードバンクは『明日食べるものがない』という人が訪れ『なんとか今日は食べられる』『子どもに食べさせられる』食事がとれる安心感はすごく大切だと思います」

何かのきっかけで、体を壊す、心を壊す…といったように健康はドミノ式に崩れる。「明日も生きていられる」と安心できる日々が続き、その次にその人らしい「人生を実現する」方向へ歩みだせる。「FBは、生活の安全を守っていると思います。これからも幸福と健康を届けてほしいですね」と語る。

ちなみに、「功利主義の行政でFBをやろうとまくいかないだろうな。どうしても、50万人分の1人への対応になってしまう」とのこと。制度に縛られないボランティアだからこそおせっかいができるのだな、と感じた。

■地域でつくる、 人を中心とした社会

「困窮者だけを救う出口はない。全体にとってやさしい社会をつくる必要があります」。

(→P4に続く)

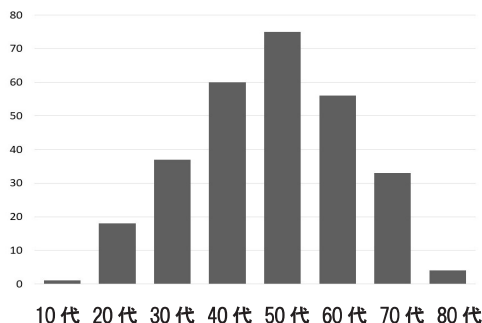
今月のSOS

FB 相談世帯数（食品提供回数）

4月 212世帯（支援229回）

5月 202世帯（支援276回）

FB年代別（2023/4-5）新規利用281人



FB主な利用理由（2023/4-5）*複数回答・総数414人

金銭管理	仕事探し・失業・就職	日々の生活（低年金）
	74	74
181	病気・障害	精神疾患・人間関係
	34	14
	債務（実質滞納を含む）	DV・離婚
	8	8
		住居費
		1

今月のSOSの一部

※FB利用者の状況を一部加工して抜粋掲載。

4/8 ● TS 男 60代・宇都宮市内。一人暮らし。透析週3回。年金をもらって生活しているが、**金銭管理を失敗**してお金が足りない。⇒食品4kg 米3kg 支援

4/12 ● AK 男 60代・栃木県内。外国籍で妻と子の3人暮らし。難民申請を行い日本で生活していたが、**仮放免**扱いとなり**仕事ができなくな**ってしまいました。高血圧と糖尿病なので体調もすぐれない。⇒食品6kg 米6kg 支援

4/14 ● KM 女 30代・宇都宮市内。**妊娠7か月**。つわりで食欲旺盛になってしまい、日に5食食べていたら生活保護のお金が無くなった。市役所に相談したところFB紹介された。お腹の子の**父は1週間だけ付き合った人**で、認知もされず現在音信不通。頼りたい母と妹が近くに住んでいるが、それぞれ生活保護を利用しているため頼れない。⇒米3kg 食品7kg 支援

4/28 ● YT 男 20代・宇都宮市内。先月**父が急死**。父の年金と本人のA型

作業所給与で暮らしていた。生保申請し、グループホームに入れるよう手続き中。父の遺体を引き受けられないので警察署に安置。葬儀は市にやってもらう。⇒食品2kg 支援

5/9 ● TS 男 40代・宇都宮市内。スポーツ系の仕事をしていたが**ケガ**で引退。日雇いの仕事で繋いでいたが収入少なく**治療**にもお金がかかるため生活保護を申請してきた。⇒米3kg 食品3kg 支援

5/16 ● PM 男 30代・宇都宮市内。宇都宮市が子育てに優しい街と聞いて他県から移住。妻と子7人の9人暮らし。妻の仕事は見つかったが、**子どもが保育園に入れず**子の世話のため本人の条件に合う仕事が見つかっていない。6月末までは収入なく苦しい。⇒米6kg 食品13kg 支援

5/17 ● YT 女 70代・宇都宮市内。宇都宮市社協経由で支援要請。所持金もほとんどなく、数日**野宿**している。生活保護の相談に2回行ったが、申請には至らなかった。⇒調理不要の食品5kg 支援

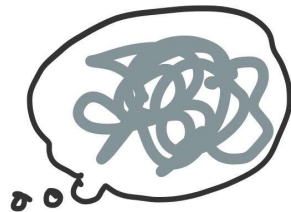
5/23 ● TS 男 50代・宇都宮市内。80代後半の**両親がほぼ寝たきり**状態になり、仕事を退職した。収入がなくなり

生活ができなくなったので地域包括支援センターに相談したところ、生活保護とFBの案内をされた。⇒米3kg 食品4kg 支援

5/25 ● YK 男 60代・宇都宮市内。腰痛で仕事ができなくなった。**年金の申請と生活保護の申請**を行ったが、年金の収入が確定しないと生保の確定ができないといわれた。それまでの食品の支援をお願いしたい。⇒米3kg 食品5kg 支援

5/30 ● KT 女 30代・宇都宮市内。生活保護を利用している4人の子どもを持つ**シングルマザー**。出費が重なり月末までお金が間に合わなくなってしまった。⇒食品12kg 支援

5/30 ● DT 男 70代・宇都宮市内。夫婦で年金生活。先月**がんの手術**をし、医療費が生活を圧迫。普段から生活は厳しく、**親類から借金**を重ね、累計で200万円を超えてしまった。持ち家に住んでいるが、借金の返済と将来のことを考えると処分しようとも考えている。⇒バックご飯中心に食品10kg 支援



高齢男性の 「財布落とした」を考える



■ 3人に1人が金銭管理能力乏しく

FBを訪れる高齢者は多い。特に男性が「財布落とした」と。6月半ばまでに320人の利用者が様々な理由により食品提供の依頼に来所している。そのうち60、70歳代以上の男性は75人だった。「財布を落とした」「電気やガスが止まりそう（実際に止まっている）」という一人暮らし高齢男性を来所者リストから数えてみた。75人のうち、なんと27人。3人に1人以上の割合で金銭管理の力が乏しくなっているようである。

ほとんどの方は年金を受給しているか、生活保護を利用している。中には介護サービスを利用している人もいる。十分に生活を送ることが難しい年金額（生保基準額を少し超える程度）の方がほとんどであるが、なぜか安定した生活を送ることができない人が多い。金銭管理能力の低下は、いわゆる“物忘れ傾向”が強くなり生活に支障が出てきているのではないかと考えてしまう。



小澤勇治●本会職員

<認知症チェック> 余談だが、東京都福祉保健局のHPに「自分でできる認知症の気づきチェックリスト」というページがあり、自分もチェックを行ってみたところ結果は20点だった。「20点以上の場合、認知機能や社会生活に支障が出ている可能性があります。お近くの医療機関や相談機関に相談してみましょう」とのこと。必ずしも認知症の疑いがあるわけではないが、日常的に関心を寄せていくことが必要だと感じている。（オザワももう、66歳です）

■ 一人暮らしで孤立化。認知症傾向気づけず？

「財布落とした」高齢男性たちは、アパートでの一人暮らしという環境がほとんどなので、おのずと地域の人々との交流が少なくなり孤立化が否めない。食品提供を準備するなか、認知症の疑いをせざるを得ない話し方をする高齢者を目の当たりにしたとき、「お金がすぐなくなってしまうのは、あなた自身が認知症なのでは」と言いたい気持ちにかられてしまう。

その時の会話の成り立ちがあまりにもチグハグな場合には、最寄りの地域包括支援センターに連絡し、訪問などのアクションをお願いしている。最近では2の方が、それぞれの住まいのある地区を担当しているセンター職員の関わりにより、生活の見守りや医療につながった。

一人暮らしの高齢者への生活を支える地域づくりが大切だと感じる日々だ。今後も地域包括支援センター等と連携し、認知症一歩手前の高齢者も必要なサポートを受けられるよう、見えないSOSをFBでキャッチできればと思う。

FBでたすかりました 不登校・問題行動…孫の育児に、気持ちのやり場なく。 でも「一緒に暮らしたい」と思えるようになりました

谷口 初子さん（仮名 64歳）

他県で暮らす娘（精神疾患）の子ども2人（中1・幼児）を引き取って、3人暮らしは3年に。家計はいつも苦しく、工面に親類に頭下げて回ったり、子が中学で不登校になり、この歳でどうやって育てて行けばいいのか途方に暮れました。市役所でFB紹介されても、いざ行くととなるとためらいがありました。でも、下の子が保育園で「問題行動がある」と注意された時は、気持ちのやり場がなくて、その帰りに子どものお菓子でも、と思いFBに立ち寄りしました。

そこで、思いがけず子どもの相談もでき、食品とおもちゃ付のお菓子をもらいました。すると下の子が、そのおもちゃをずっと大事に遊んでいるのですよ。それ見たら何か肩の荷が軽くなってね。他人様に助けてもらっても良いのじゃないかと。それから何度かFBを利用したり、そこで紹介された子ども食堂や居場所にも行きました。こんな年寄りの悩みを若いスタッフさんが丁寧に聞いてくれて、本当に感謝です。皆さんのおかげで、この孫たちが大人になるまで、一緒に暮らしたいと思えるようになりました。



(→P1 続き)

努力した人が報われる社会は、一方で“努力していない”人が報われない社会。努力できない環境にいる人の声は無情にも切り捨てられてしまう。一方で、エリートと呼ばれ出世街道まっしぐらに思える人も長時間労働など過酷な環境で自死に至る悲報が止まない。精神疾患、労災、休職、心筋梗塞もうなぎのぼりだ。

「経済優先、自己責任の社会にどこかでブレーキをかける必要があ

る」。一気に全体が変わるのは難しいかもしれないが、地域単位では様々な取り組みがある。官民が特色を生かして居場所と活動づくりを積み重ねていくことで、重層的支援体制が目指す“すべての人々のための社会”に近づけよう、と。

「人の暮らしを中心とした、人にやさしい社会を作らないといけない。人にやさしい社会とは、どんな人にも居場所があり、自分の存在を実感できる社会だと思います」(羽金さんインタビューおわり)

<お話を聞いて…>保健とは、健康をまもり保つこと。健康とは、と考えると身体面・精神面に及ぶすべての行動や環境が関連しているように思う。食品支援を行うFBは、「ある日突然困窮した」という状態に目が行きがちだが、実はそれまでの人生の小さな積み重ねが地続きで関連している。健康と向き合うことは、自分を大切に、自分の今後の人生を信じられる。FBを利用した人が「さてこれからどうしようか」を考える再出発にも保健の観点は欠かせないと、お話から気付くことができた。(取材：宮坂・牧岡)

健康は大事ななあ



ボランティアのつぶやき

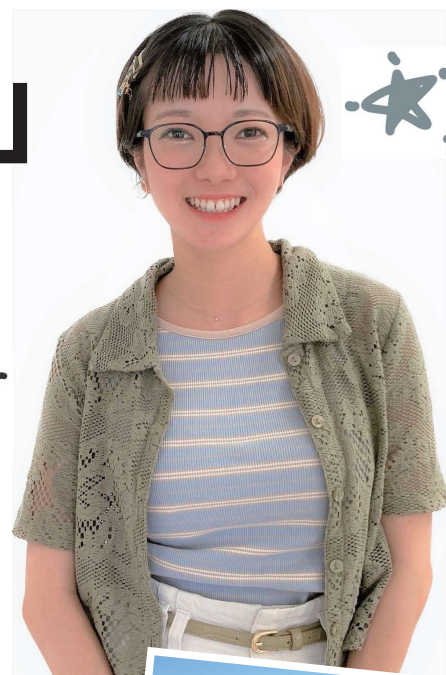
子どもの「体験の貧困」を救いたい！

勅使川原 夢南さん (大学生)

宇都宮大学3年生の勅使川原夢南です。若者ボランティアチームVレンジャーのリーダーを務めています！Vレンジャーでは「子どもの体験の貧困」を解決するために大学生を中心とした若者メンバーが子ども向けのイベントを企画しています。3月には那須でお泊り会をし、8月にも1泊2日のキャンプを計画中です。

元々、フードロスに興味があったことからFBに携わるようになりました。そこから、貧困などの社会問題を知り、今は子ども食堂へのボランティアを中心に活動しています。子ども食堂では子どもと一緒に遊んだり、ご飯を食べたりします。子どもからたくさんパワーをもらえるので大好きな活動です！

FBの活動は、地域で発生した食品ロスを地域で困窮者や子ども食堂への食品提供という形で活かせるので続けなければいけないし、日本や世界に広がってほしいなと思っています。



●FBを利用している家庭の子どもにも、Vレンジャーの企画に参加している子がいます。

企画で子どもにプレゼントするお菓子などは、FBの食品を活用してもらっています♪若者パワーでがんばれ～！(み)

「もったいない」を「ありがとう」に。

会員を大募集中！

ボランティアも！

◆会費(年間)

- ◎ 正会員 12,000円
- ◎ 賛助会員 3,000円
- ◎ 団体会員 30,000円
- ◎ 学生サポーター 1,000円

会費・寄付はこちら ※匿名希望の方はご連絡ください

■銀行

栃木銀行 馬場町支店 普通 1086399

名義/特定非営利活動法人フードバンクうつのみや 理事徳山篤

※領収書発行のため、メールか電話で、氏名と連絡先をご一報ください。

■郵便局

宇都宮 00260-2-90882

特定非営利活動法人フードバンクうつのみや

■WEBサイトから

クレジットカードでの
ご寄付もできます。

